

JEMAI 環境ラベルプログラム アドバイザリーボード 議事要旨

日時： 2014年7月28日(月) 10:00~12:00

場所： エッサム神田ホール 4階大会議室(401)

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-2-2

アドバイザリーボード設置・運営規程(JR-02-01)に基づき、アドバイザリーボードを開催し、下記の協議を行った。

1. JEMAI 環境ラベルプログラムの現況

事務局から、エコリーフとCFPプログラムに関する登録公開/PCR数の遷移、分野別製品割合(2011年度末、2013年度末)、事業者別製品割合(2011年度末、2013年度末)の説明があった。委員から今後の登録公開の見込みについての質問があった。事務局からは、経済産業省のどنگり事業に基づく制度連携による登録公開が一定数あり、今後同様の制度的なインセンティブが有効である旨の説明がなされた。

2. 中期行動計画の進捗状況

事務局から、中期行動計画に基づく定量型環境ラベル拡大のイメージ、中期行動計画の進捗状況、国際規格準拠と国際的な環境情報開示制度への適合可能性、エコリーフ環境ラベルとCFPプログラムの整合を確保した一体運営の推進、認知度向上と市場づくり(様々な活動報告と汎用性の高いCFP-PCRの作成など)についての説明があった。委員からは、国際規格に適合可能なプログラム開発や、海外市場における日本企業の情報開示に必要な認証に関する積極的な情報収集、EPEATのような海外のLCA情報開示のインセンティブにおける基準作りへの関与、開示する情報が合理的なものとして消費者に受容されるための仕組み、国内のグリーン購入プレミアム基準の採用への働きかけなどの重要性について指摘がなされた。また、CFPの登録公開数の目標については、2013年度は一部目標未達であり、今後、国内の経済情勢や地球環境全体の動向等を背景に、費用対効果の改善などで着実に進める所存との認識が事務局からなされた。

3. 中期行動計画の進捗状況

1) 削減マークの導入について事務局から導入案、環境領域のコミュニケーションスキームの開発、業界ベンチマーキングやロゴマークの検討などの進め方について説明があった。現在は考え方を整理している段階である。委員からは、関連プログラムとの関係の整理、複数領域の統合化に関わる整理、商取引上の慣行への配慮、BtoB/BtoCのコミュニケーションの相違への配慮、組織レベルの指標化への長期的な展開の検討、削減に関するデータの出し手と受け手の時間のズレに基づくミスリーディングの回避などが、重要なポイントとして挙げられた。

2) PCR認定・CFP検証料金の取り扱いについて、事務局より説明があった。委員から質問を受けPCR策定およびCFP検証の料金は基準自体を整備し、登録公開料は運用上の一定期間の減額措置を行うなどの事務局の考え方がさらに説明された。

4. その他懸案事項

事務局から環境ラベルプログラム運用上の主な懸案事項として、リサイクル・リユース効果を直接効果として主張できるCFP公開制度への改善、CFPシステム認定制度へのプログラム型認証法の導入についての企業提案について説明があった。委員から慎重かつ迅速に検討を進められたいとの意見が出された。

以上